



暮らしのなかに、自然と文化が佇むまち 東尾久三丁目停留場

東京さくらトラム
(都電荒川線)

四季折々の自然溢れる尾久の原公園へと続く「尾久の原防災通り」。その両側に広がる新旧の家並みを縫うように延びる道を歩けば、懐かしさや新しい発見を感じさせる場所やお店が。ここは暮らしのなかに、そんな魅力が溶けこんでいるまちなのです。



冬にはトンボ池にカモ、コサギ、アオサギ、カワセミ、カワウ、カモメなどが飛来します。バードウォッチングに、ぜひどうぞ。

1 尾久の原公園

隅田川近くに広がる公園。
23区内で楽しめる自然の楽園

東京都東部7公園の一つ「尾久の原公園」は、ADEKA(旧旭電化工業)の工場跡地を活用して整備された公園。広い園内には、自由に遊べる芝生広場や原っぱ、そして荒川区の木である桜(枝垂れ桜)が約170本もあり、春には大勢の人が花見に訪れます。夏は子供たちに大人気のジャブジャブ池、秋にはトンボが飛び交うトンボ池は冬の訪れと共に野鳥が飛来する…。というように、1年を通して自然を満喫できる23区内でも貴重な公園です。



荒川区東尾久7-1
年間を通し通日開園 入園無料
※サービスセンターのみ8:30~17:30開所
12月29日(火)~1月3日(日)はお休みです。
03-3819-8838(サービスセンター)
https://tokyo-eastpark.com/ogunohara/

尾久の原公園で野鳥観察を楽しんだらまちを散歩。古い倉のある家を見つけたら、懐かしい東京に出会えるよ



東尾久運動場
(多目的広場・庭球場・小広場)
尾久の原公園に隣接する荒川区のスポーツ施設。多目的広場は軟式少年野球・ソフトボール・サッカー等が楽しめます。ご利用には登録と事前予約が必要です。詳しくは荒川区のHPで。
https://www.city.arakawa.tokyo.jp/



下尾久石尊
暦応年間(1338-42)、頻りに地震が起きた時、この地に生えた2尺程(約60.6cm)の異形な石を村人が石神として祀りました。「出世石尊」としても信仰されています。



昭和11年頃、お社はありませんでした。

大門子育て地蔵尊

内部には正徳元年(1711)源覚法師の銘の石造地蔵菩薩など2体が祀られ、また傍らには関東大震災の犠牲者を供養する石碑が。毎年9月1日は供養祭が営まれています。



世界各地の、信頼できる生産者の生豆を厳選。まずはお店で淹れたコーヒーで、本来の味を知ることがおすすめ。1杯400円(税込)〜、コーヒー豆は100g〜(価格は各種)。

2 Blackhole Coffee Roaster

ブラックホール コーヒー ロースター
荒川区町屋4-31-11 ☎03-6807-9767
☎火・水12:00〜、金13:00〜、土・日10:00〜
各曜日17:00まで ☎月・木
https://www.blackholecoffee.jp/
※コーヒー豆・器具の通販も



上質なコーヒーで、上質な日常を届けるマイスターのお店

ただひたすら自らが美味しいと信じ、お客様に喜んでもらえる味を追求する、スペシャルティコーヒーの焙煎工房&販売所。一粒ずつ選別し、その豆の個性を引き出す丁寧な焙煎で、上質な「うちカフェ」のひとつを届けています。

代表 前田 国敏 さん
(SCAJ認定コーヒーマイスター)



一番人気「カレーつけ」そば、うどん(各900円)。スパイスから工夫を重ねた味がヤミツキに。末廣そばの酒1,100円、久保田千寿1,600円、辛丹波880円(価格は全て税込)。

4 手打ちそば・うどん居酒屋 よろこびの美 MINORU

荒川区東尾久6-5-6
03-6240-8886
11:00~22:00 ☎水
https://www.yorokobi-minoru.com/



美味しいから楽しくなる。麺食い・酒呑みなら、ぜひ!

和食一筋で修業したご主人の自慢は、手打ちのそばとうどん。そばは香り高く、うどんは程良い太さとコシ。夜は自らが厳選した銘酒に、迷うほどの料理の数々で、お代はお手頃。麺食い酒呑みの顔が思わずほころぶお店です。

店主 入江 孝さん、奥さん 好美さん



スラリと並ぶ水槽には世界中のあらゆる種類の淡水生物や植物が。購入の際には飼育や栽培方法の相談・アドバイスも丁寧にしてくれます。

3 プラゼール 水生生物研究所

荒川区町屋4-31-7
03-3892-8071
10:00~20:30
☎月 *来所の際は電話でご確認ください
https://www.prazer.jp



淡水生物の専門家がひらく 淡水魚ショップ&博物館

代表の浦野さんは10年以上も南米ブラジル等で調査し、専門誌や学会で発表もする淡水生物の著名な研究者。ここは単なる販売ではなく、生物の飼育を通してその世界、自然の不思議さ・面白さを知ることのできる、真摯に学ぶ人ほど楽しいところです。

代表 浦野 貴士 さん



元祖ウスキーボンボンに、信州ジュースボンボン。アルコールを飛ばした商品は400円。お酒を活かした大人向けは800円〜。他にも季節限定商品など多数あります(全て税込)。

6 ムラマツ製菓(株)

荒川区町屋4-24-7
03-3895-4353 ☎10:00~19:00
☎日・祝 *来店の際は電話でご確認ください
http://www.bapsd.com/muramatsu/
※通販も可



ひろがる元祖「ボンボン」の なつかしくて、新しい味

3代、100年以上続くボンボン菓子発祥の店。素材は砂糖と酒類などのみ。手作りで約1週間もかけてできる、素材でなつかしい味です。最近では全国の酒蔵や醸造所から新作開発の声も掛かるとか。ボンボンは日本中のお口にひろがります。

社長 村松 義孝 さん

誌面で紹介したお店やスポットに
ターリーターキーの2人がおじゃまします!

テレビも見てね! あらぶんちよ散歩 [東尾久三丁目停留場]

12月7日(月)~13日(日)

- 地デジ10ch 15:00~、19:00~
- 地デジ102ch 23:00~
- 地デジ11ch 11:00~、14:00~、17:00~

YouTube

「あらぶんちよ!チャンネル」でも公開中!



*データは取材時のものです。内容が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
*掲載店舗は通常マスク着用で営業していますが、撮影のため特別に外していただいています。

注目の人 ぬりえ美術館 館長 金子 マサさん



日本の文化「ぬりえ」を守り、伝える美術館

私が化粧品メーカーで働いていた頃、フランス人デザイナーと出会いました。その人の自国文化への強い愛と誇りを感じた時、自分が日本のことを何も知らないことに気付いたので。改めて日本の文化を学ぶうちに、ぬりえ作家の「きいち、薦喜喜」を叔父にもつ私は、ぬりえも日本の大切な、残していくべき文化であることを知りました。その思いから、この美術館を自分の住むまちに開いたのです。ぬりえが流行った頃の日本は、誰もが

貧しい時代でした。お洒落など、遠く手の届かないもの。でも憧れの服や生活、夢に描いた世界が、ぬりえなら触れることができたのです。だから日本中の隅まで広まり、最盛期の発行部数は220万部だったといえます。そんな多くの人に愛されたぬりえの文化を守り、伝えるために開館して18年。その存在を知った人達が全国から訪れ、あの頃を思い出し胸を熱くしています。みなさまもお子さん、お孫さんと一緒に、ぜひご来館ください。

「第11回 ぬりえコンテスト2020」入賞作品 21年1、2月に発表!
子どもたちに、ぬりえの楽しさを伝えていくために「子ども部門」も設けました。
2021年1、2月、美術館に展示するとともにホームページでも紹介します。



©きいち/小学館



館内では「きいち」の作品を始め、世界のぬりえを展示。

ぬりえ美術館

荒川区町屋4-11-8
☎中学生以上500円
小学生100円
小学生未満は無料
土日のみ開館
11~2月 11:00~17:00
3~10月 12:00~18:00
(入館は開館の30分前まで)
03-3892-5391
http://www.nurie.jp/

